



▲江戸時代、依網池と考えられた弁天池址(池内池)弁財天を祀る(天美東7丁目)



▲江戸時代、「よさミ(依網)の杜」とよばれた屯倉神社の社叢(三宅中4丁目)



▲「依網池址」石碑の南側の大和川土堤から天美西の今池水みらいセンターをのぞむ



▲「依網池址」石碑(大阪市住吉区庭井2丁目)

天美西の難波大道に西接して依網の地に作られた歴史の池

天美西七丁目の今池水みらいセンターで見つかった七世紀中頃以降の難波大道が南北に走っていた頃(歴史ウォーク)262、古道の西に接して依網池が存在していました。江戸時代、摂津国住吉郡刈田村・庭井村など、今の大阪市住吉区南部や堺市北部の五箇庄地区にまたがっていました。

『古事記』には、十代崇神天皇の時に依網池が作られたとあり、四々五世紀代の応神天皇や仁徳天皇の御代にも依網池の記事が見られます。一方、『日本書紀』は崇神天皇の六十二年十月に依網池が出来たとあり、七世紀前半の推古天皇の十五年(六〇七)にも依網池を作るとあります。

これらの記述をすべて信じることはできませんが、七世紀頃には同じく多く記されている狭山池(大阪狭山市)と並んで、古代を代表するため池として重要視されていたと思われます。

依網池は、江戸時代中頃の宝永元年(一七〇四)に大和川が今の流路に付け替えられ、依網池の中央を分断したことから、池は縮小し、戦後まで一部分残っていたものの、今では消滅してしまいました。

それでも江戸時代の「依網池古図」(住吉区・大依羅神社蔵)などから、新大和川以前の池は新川の南北に広が

り、松原市域の西北端、今池址の水みらいセンターあたりまで東南堤が接していたようです。江戸時代の河内国丹北郡油上村芝村(天美西)の地です。面積は約四二万八〇〇〇平方メートル、水深は最も深い所で三・三五メートル、平均では一・一五メートルと考えられています。水深は浅いですが、近世初頭では狭山池よりも面積をしのいでいたといわれています。

古図には、布忍から天美方面に北流し、当時、天美では天道川とよばれていた西除川も、依網池のすぐ南東に描かれています。

住吉区庭井二丁目の阪南高校東側には、延喜式内社の大依羅神社が鎮座します。その大和川側の南門(もともとの正面)からのびる馬場先の鳥居前に「依網池址」(大正五年三月、大阪府)の石碑が建っています。住吉区というと、松原市域から離れている感がありますが、大和川をはさんで北西端は市域を接しているのです。土堤からは、今池水みらいセンターが間近にのぞまれます。

依網池の名は、同地が依網と古代からよばれていたからです。『倭名抄』という平安時代に編集された地名辞書に、依網の地名が摂津国住吉郡大羅郷と河内国丹比郡依網郷の二か所に見られます。摂津と河内の国境をまたいで広がっていました。

摂津側には大依羅神社があり、明治

時代以降、庭井・菊田・杉本・我孫子村などが合併して成立した依網村の地です。一方、河内側が松原市域の天美から三宅にかけての地域でした。

『日本書紀』の仁徳天皇四十二年九月と七世紀の皇極天皇元年五月に依網屯倉という天皇家の直轄地である屯倉が、依網地方にあったことを示す記述があります。三宅中四丁目の屯倉神社のある三宅の地名起源と考えられています(歴史ウォーク)10)。

江戸時代中頃の享保十五年(一七三〇)、三宅村の庄屋であった妻屋秀員が屯倉神社で詠んだ和歌の中に「松杉のこのまさやかに影てらす月夜よさみの杜の神かき」とあり、屯倉神社を「よさみの杜」と表しています(歴史ウォーク)73)。

さらに、享保二十年(一七三五)発刊の『河内志』では、依網池を松原市域に求め、現在の近鉄河内天美駅東口前にあった弁天池(歴史ウォーク)36)をそのなごりとしているほどです。弁天池は今では埋めたてられています。丹北郡池内村(天美東)にありましたので、池内池とよばれていました。丹北郡の有名な池として池内池をあげ、或ひと曰う。推古天皇十五年冬十一月、河内国依網池を作る、即ち此なりと記しています。

依網池は、市域の歴史の中にも関わりながら依網の風景にとけこみ、人々の間に深く心にとどめられた池でした。